

次期公的年金シミュレーター

ユーザー視点を実現する設計・開発の取り組み

1. はじめに

1.1 今回の改修範囲

1.2 公的年金シミュレーターの特徴

1.3 初期構築時の考え方

1

1. はじめに

1.1 今回の改修範囲

現状の 公的年金シミュレーター



公的年金
老齢年金

- 現行シミュレーターの対象は「老齢年金」のみ
- 老齢年金は年齢と加入期間に基づいてシミュレーション可能であり、**比較的**理解しやすい制度
- 受給額を試算するにあたり、**シンプル**な操作性(入力項目数等)の提供が可能

次期の 公的年金シミュレーター



公的年金
老齢年金



公的年金
障害年金



私的年金
iDeCo
個人型確定拠出年金

機能追加

- 今回の改修により「老齢年金」に加え、「障害年金」と「iDeCo」のシミュレーション機能を追加
- 「障害年金」は障害の等級や初診日など、**「老齢年金」に比べて制度が複雑**
- 機能の増加に伴い各機能に対するニーズを理解、整理することが必要
- **賦課方式である公的年金**と、**積立方式であるiDeCo**の両方を同じシミュレーターで扱うことから、表現の検討、及び位置づけの定義は必要

1. はじめに

1.2 公的年金シミュレーターの特徴

Appendix
年金シミュレーションツールとしてのポジショニングの整理

他シミュレーションツールとの違いについて、弊社の理解は以下の通りとなります。

A：公的年金シミュレーター
公共性が高く、かつ簡単にシミュレーションできることが提供価値
年金を「見える化」することで制度に対する理解促進・周知が目的

B：ねんきんネット「年金見込額試算」
様々な条件が設定でき、より詳細な試算が可能
マイナポータルとの連携による個人々々の正確な試算
細かく条件を設定し、受給できる年金額を「試算」することが目的

C：民間が提供するシミュレーションサービス
銀行や証券会社が提供するシミュレーションサービス
比較的簡易的なシミュレーションが可能
営利でのシミュレーションであり、自社のサービスや商品への誘導することが目的

36

年金シミュレーションツールとしてのポジショニングマップ

公的年金シミュレーター 使い方ガイド

年金に関するこんな皆さまのお声にお答えします！

- 30代・女性
- 40代・男性
- 50代・男性

公的年金シミュレーターの特徴

- ✓ 簡単でスムーズな操作性
- ✓ グラフを表示しながら試算できる
- ✓ 安心・安全に利用可能

リーフレット（抜粋）

キーワードは「簡単に」「迅速に」「手軽な」試算

1. はじめに

1.3 初期構築時(老齢年金)のデザインコンセプト

①「パッと試算」を実現する“シンプルな”構成

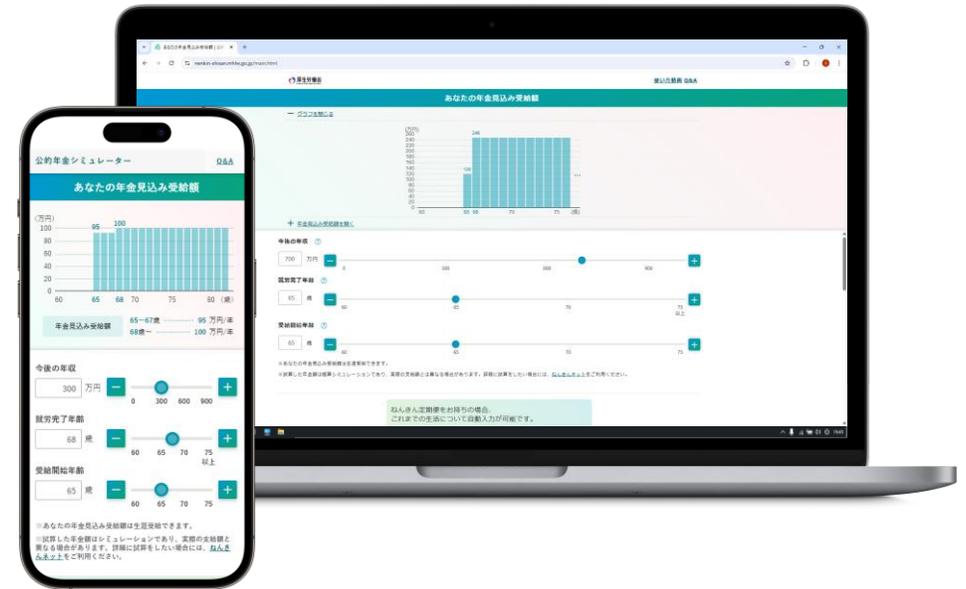
今回の改修において、シミュレーション機能を追加するにあたり、コアな特徴である“シンプルな操作感”は踏襲し、ユーザーの迷いが無い画面設計を目指します。

②仕組みや制度の周知に向けた“分かりやすい”表現

本ツールの目的である「年金の仕組みを国民に正しく、分かりやすく周知」に向け、仕組みや制度についても理解が深めることができるよう、ヘルプやガイドの見直し、充実を図ります。

③予見可能性の向上のための個々人の“見える化”の実現

個々人のパラメータに基づき“見える化”することは本シミュレーションツールの本質であり、「シミュレーション」をキーワードに訪れるユーザーの期待値でもありと考えております。ユーザーニーズを確実に反映したシミュレーションの結果表示を検討します。



徹底したユーザー視点の追求

公的年金シミュレーターの特徴、及び類似サービスのポジショニングから
年金の試算におけるユーザー体験を重視した設計を実施

実現に向けた3つのアクション

深い共感

Empathy

一人の「人間」としてユーザーを捉え
(定義し)、どのような悩みを解決できる
サービスなのかを検討・共有し、
利用シーンを見据えた設計を推進

反復デザイン

Iterative Design

早期にUIデザインを具現化(プロトタイプ)、
そのプロトタイプを通じてユーザーや
有識者に問い続け、何度も繰り返し
ブラッシュアップを実施

「不」の徹底解消

Problem Solving

「使いにくい」「分からない」「不安」、
そして特に「誤解」など。これらの「不」を
排除し、ストレスフリーな体験を追求

2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.1 人間中心設計プロセス(HCDプロセス)の実践

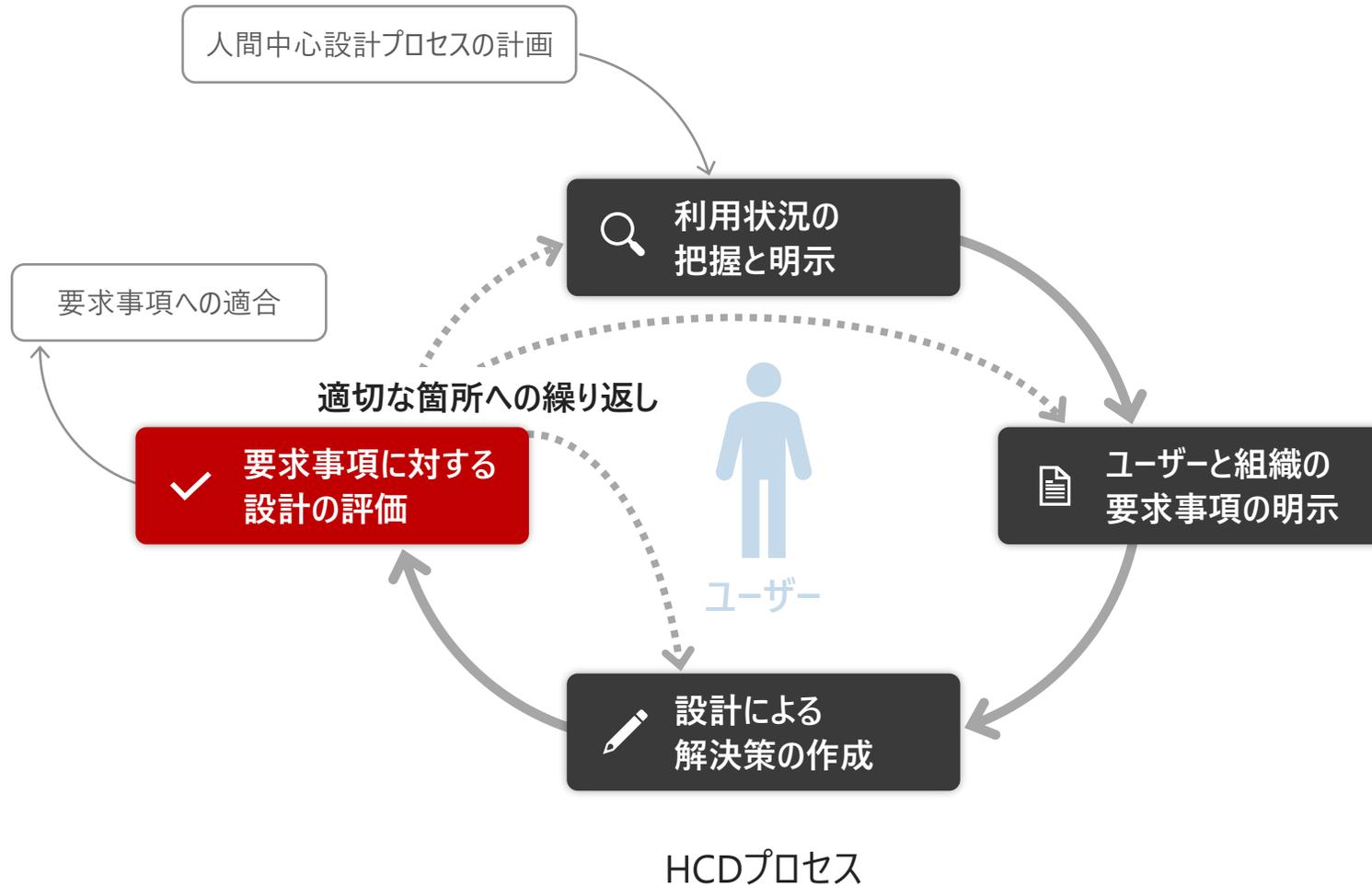
2.2 ユーザー視点を実現するための体制の構築（ステークスホルダマップ）

2.3 初期構築時の考え方



2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.1 人間中心設計プロセス(HCDプロセス)の実践



徹底したユーザー視点の実現に向けて HCDプロセス※の実践

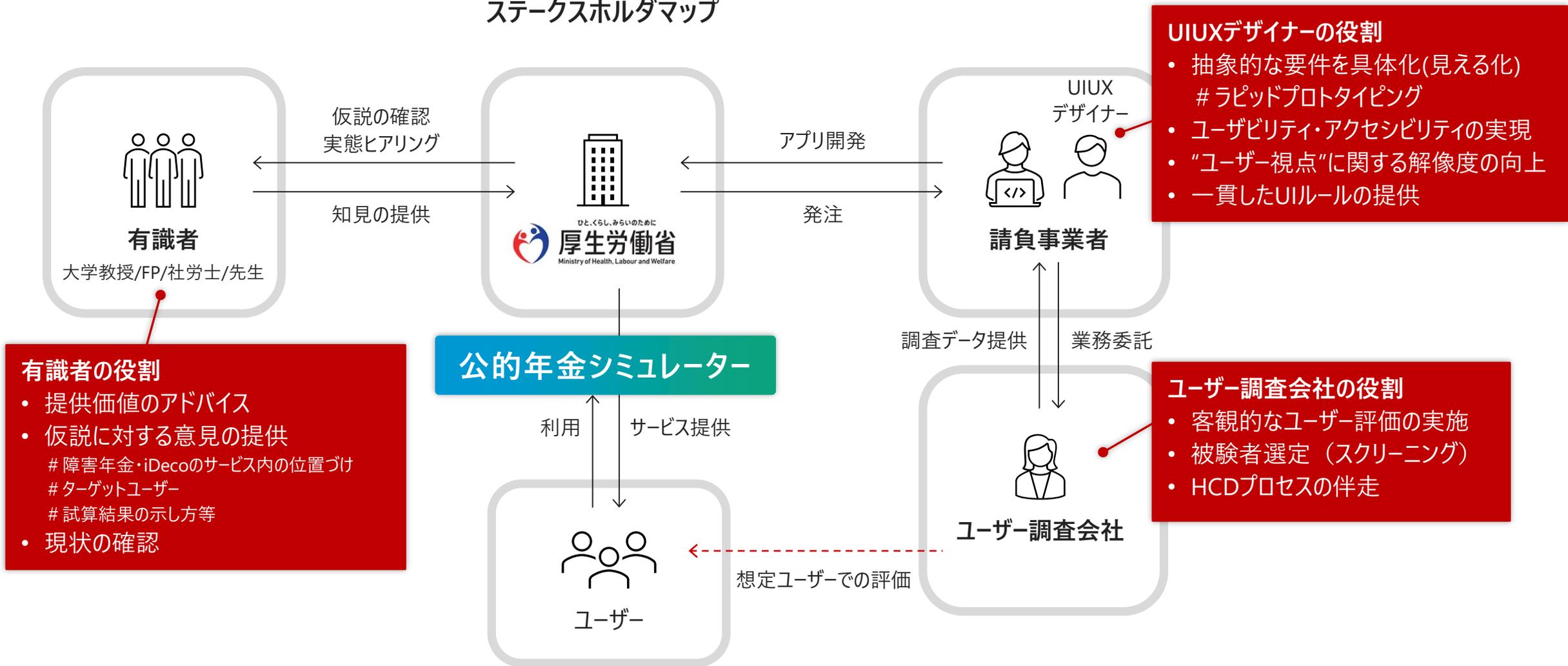
作り手の思い込み（仮説）を、ユーザーや有識者などの意見や反応（事実）で研磨を繰り返し、
確実なプロダクトに落とし込んでいく
プロセスを実践

※ 製品やサービスの開発において、ユーザーの行動やニーズ、利用環境を深く理解し、それらを設計の中心に据えることで、使いやすさ（ユーザビリティ）や高い体験（UX）を実現する開発手法。仮説検証を通じて製品の完成度を高めていくのが特徴

2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

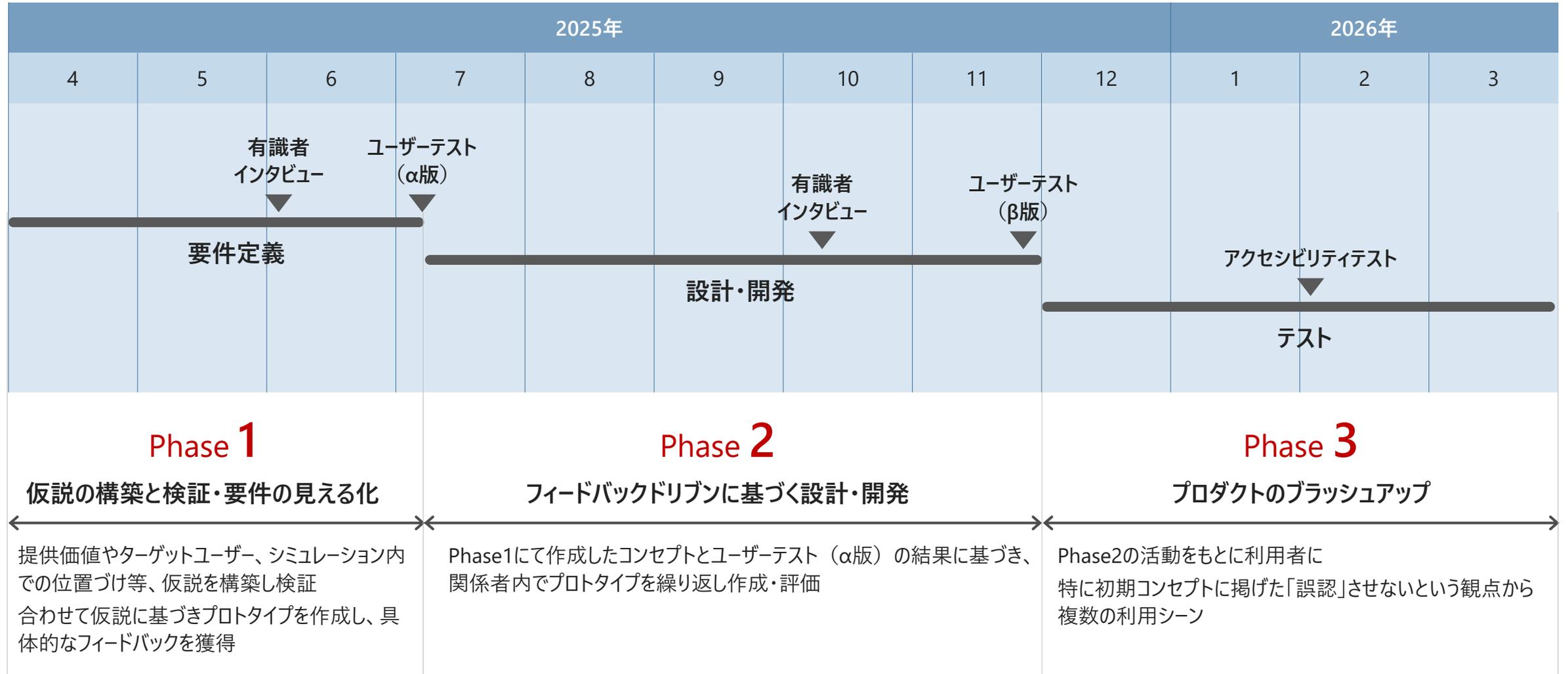
2.2 ユーザー視点を実現するための体制の構築

ステークホルダマップ



2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.3 設計・開発プロセス



2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.4 アクション(ユーザーの深堀 (+ 設計思想の共有))

Appendix
ターゲットユーザーと方向性 (ユーザーセグメント) **障害年金**

障害年金

Sub Target 将来設計への関心度

Main Target

Sub Target

- 自身、及び家族が傷病の診断を受けており、障害年金の申請を考えている方
- 障害年金に対して一定の理解はある

- 障害年金の受給・請求しておらず、将来何かあった時のリスクを考えている方 (及びその家族の方)
- 障害年金制度に対するリテラシーは低い

※本資料の画像・アイコンは開発中のものにつき、実際の仕様とは異なる場合があります。

Appendix
ターゲットユーザーと方向性(ペルソナ) **障害年金**

筧直子(34歳)

居住地 東京都内
職業 IT企業の事務職(派遣社員)
家族構成 夫(32歳)(システムエンジニア)
第一子妊娠中

背景

- 第一子の妊娠を機に加入している保険の見直しを検討中
- 夫は過去にメンタル不調を訴えていた時期があり、最近も表情が冴えない健康面がとて心配
- 友人のFPから障害に対する公的支援制度があることを聞き、受給の対象になるのか、どのタイミングでいくもらえるのかシミュレーションした

主な課題

- うつ病など精神疾患で障害年金がどの程度受給できるのかを知りたいが、制度が複雑で分かりづらい
- 保険料の見直しの判断材料にしたい

サービスに期待する機能

- 自分の状況を簡単に入力するだけで、障害年金の受給額がシミュレーションできること
- 年金制度に対する知見が無くても操作でき、制度を知ることができること

- 一人の人間としてユーザーを定義
- 公的年金シミュレーターが「誰」に対して「どのような価値」を提供するのかを整理
- それぞれの機能でターゲットとするユーザーを具体化し、プロジェクトメンバー間で共有することで設計思想を統一

Appendix
ターゲットユーザーと方向性(CJM)

Scene	①認知と情報収集	②利用(試算)	③理解	④更なるアクション(探索)
Touch Point	各種メディア/SNS/人	公的年金シミュレーター(入力)	公的年金シミュレーター(試算結果)	Web/窓口/電話/メール
Action	本人(or家族) → 各種メディア	本人(or家族) → 本人(or家族)	本人(or家族) → 本人(or家族)	本人(or家族) → 本人(or家族) → ねんきんわと年金FP 保険の見直し / 窓口 FP 保険会社
Thinking (Needs)	<ul style="list-style-type: none"> 夫の健康が心配 制度があるなら知っておきたい 夫は受給の対象になるのか 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単に入力できるかな 入れなきゃいけない項目が多いと面倒だ 年金のことよく分からないけど「かんたん」に試算できるものだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> (条件によっては)受給できることが分かった 保険の見直しに活用しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なシミュレーションがしたい 自身の状況について確認したい 制度の細かいところまで把握したい 将来設計を見直したい
Emotion	<ul style="list-style-type: none"> 不安、焦り、希望 	<ul style="list-style-type: none"> 慎重、疑問(いくら?) 	<ul style="list-style-type: none"> 安心、疑問(本当に?) 	<ul style="list-style-type: none"> 興味の深まり、前向き
Experience	<ul style="list-style-type: none"> 障害年金の容易な理解 容易な情報の取得 	<ul style="list-style-type: none"> シンプルな操作性 リテラシーが低くても入力可能なUI 	<ul style="list-style-type: none"> 再シミュレーションのやりやすさ 容易な結果理解 	<ul style="list-style-type: none"> 制度の変化や例外パターンの理解 精緻なシミュレーションへの誘導 相談窓口への誘導

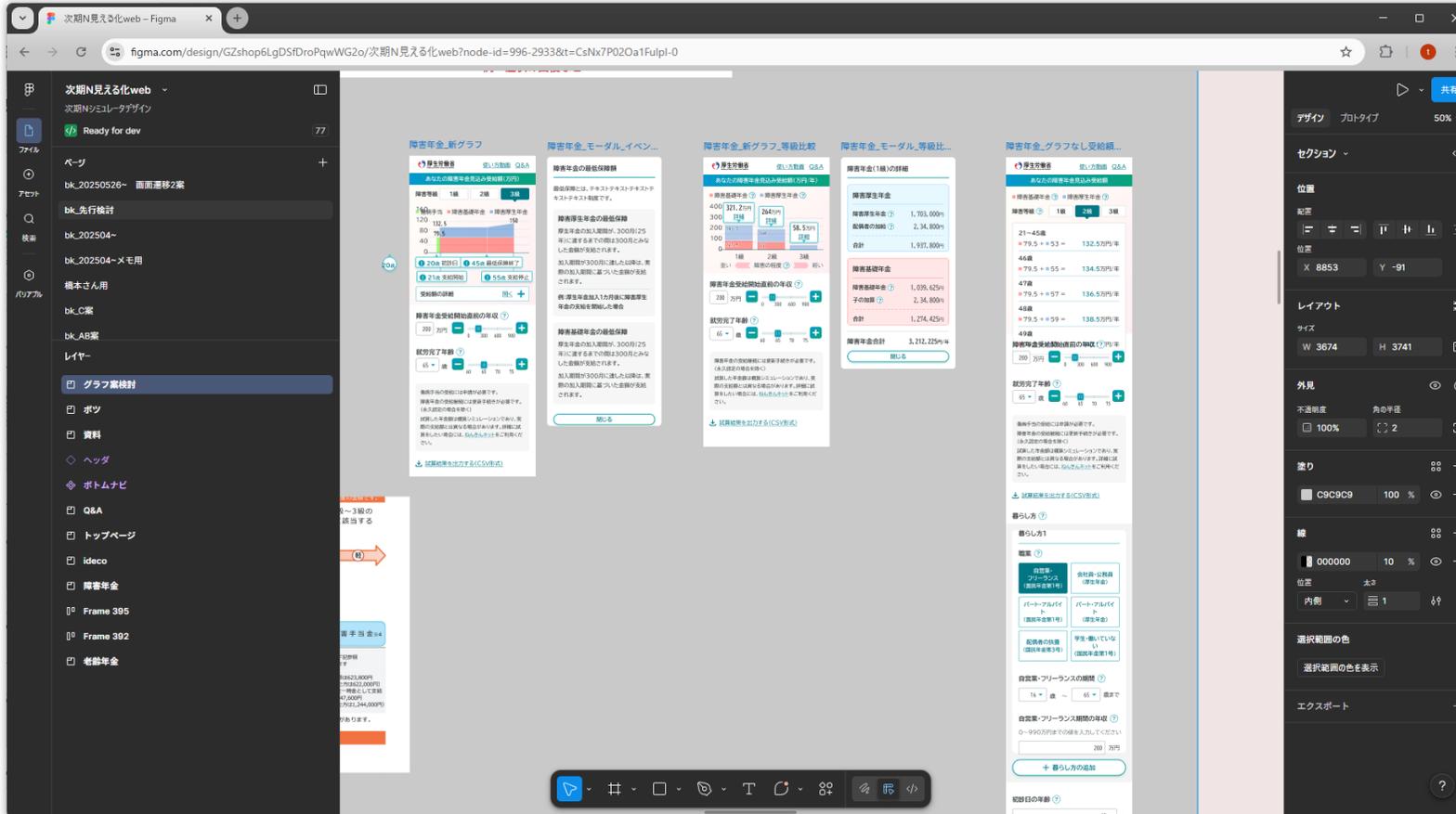
※本資料の画像・アイコンは開発中のものにつき、実際の仕様とは異なる場合があります。

2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

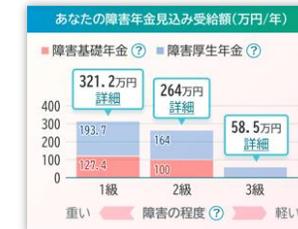
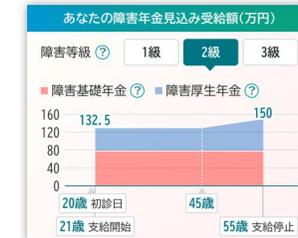
2.4 アクション(ラピッドプロトotyping※(Figma)による要件の見える化)

※UI/UXデザインにおいて低～高忠実度の試作品を迅速に作成し、テスト・修正を繰り返す高速開発手法

障害年金における結果表示の簡易プロトタイプ



Figma



2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み
2.4 アクション (ユーザー評価)



3つの手法でユーザーを評価

2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.4 アクション（ユーザー評価）

定量評価

会場調査（CLT調査※）

顕在ニーズを中心に、反応や評価を“その場で”確認する調査

※CLT：Central Location Test

1回目(要件定義)

321サンプル

現行サービスの「使いやすさ」のアンケート
障害年金・iDeCoに対する懸念や不安、
現状の理解度等の意識調査
仮説に対する検証

2回目(総合テスト)

316サンプル

次期サービス全体の操作性の確認
コンテンツの評価（情報が正しく、適切に
伝達されているか、誤認誤解は無いかな）

定性評価

オフラインデプスインタビュー

顕在ニーズを起点に、潜在ニーズを経て、インサイトを発見する調査

5サンプル

現行サービスのユーザビリティ評価
障害年金・iDeCoのプロトタイプにおける
ポジネガ評価
仮説の検証

8サンプル

次期サービス全体のユーザビリティ評価
コンテンツの評価（情報が正しく、適切に
伝達されているか、誤認誤解は無いかな）
各サービスのポジネガ評価

2. 「ユーザー視点」の実現に向けた取り組み

2.4 アクション（ツールによる定量評価）

コンバージョン計測結果

項番	区分	アクセス ランキング	コンバージョン名(ボタン名)	クリック 回数	人数	対象
1	TOP	2	【TOP】試算をはじめ	472	330	全て
2		5	【TOP】注意事項の確認へ進む	395	330	
3		10	【TOP】年金の種類タブ(障害年金)	264	330	
4		15	【TOP】公的年金シミュレーターとは	171	330	
5		16	【TOP】了厚の上 詳細条件入力へ進む	168	330	
6	老齢	7	【老齢】詳細条件の設定	344	90	老齢(35人)+ 全体の流れ(55人)
7		8	【老齢】働き方(職業)の選択	325	90	TOP画面と老齢詳細入 ンで計測
8		13	【老齢】私的年金 iDeCo試算	205	90	
9		17	【老齢】この条件で試算	163	90	
10		23	【老齢】働き方の追加	111	90	TOP画面と老齢詳細入 ンで計測
11		29	【老齢】トップへ戻る	75	90	
12	障害	3	【障害】この条件で試算	442	155	障害(100人)+ 全体の流れ(55人)
13		9	【障害】試算結果を見る	280	155	障害モーダルで「試算結 果時、および「詳細条件入
14		11	【障害】詳細条件を変更	244	155	
15		14	【障害】障害年金試算にあたってのご確認	185	155	
16		20	【障害】働き方(職業)の選択	135	155	
17		21	【障害】詳細(1級)	116	155	
18		22	【障害】老齢年金見込額タブ	111	155	
19		24	【障害】詳細(2級)	101	155	
20		27	【障害】私的年金 iDeCo試算	85	155	
21		28	【障害】詳細(3級)	83	155	
22		30	【障害】障害の程度	73	155	
23		31	【障害】トップへ戻る	46	155	
24		32	【障害】加入制度「厚生年金	36	155	障害モーダルにて障害 加入制度が「厚生年金
25		33	【障害】トップから入力しなおす	18	155	
26		34	【障害】働き方の追加	18	155	
27		35	【障害】加入制度「国民年金	15	155	障害モーダルにて障害 加入制度が「国民年金

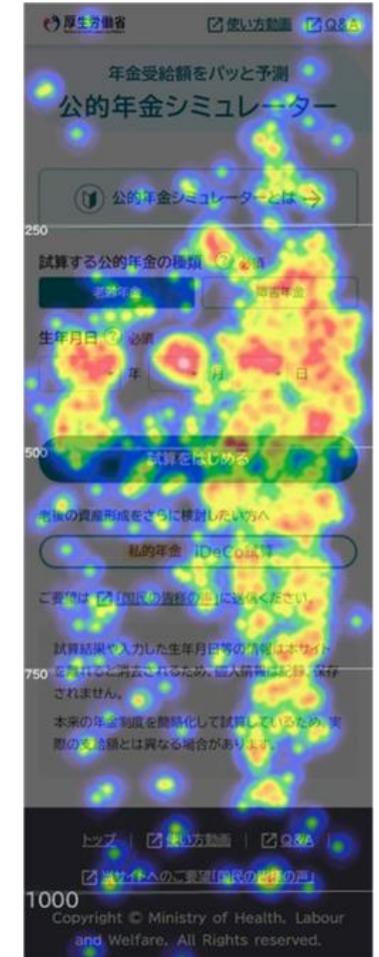
終了エリア



熟読エリア



クリックエリア



3. HCDプロセスに基づいたUIデザインの検討

- 3.1 障害年金のシミュレーション結果における期待値（レベル感）の評価
- 3.2 iDeCo運用リスクに対する理解の深化
- 3.3 ライフプランの「全体像」と「持続性」の把握
- 3.4 「不」を解消できる表現の見直し
- 3.5 結果の2層表示による年金制度の理解の深化



3. HCDプロセスに基づいたUIデザインの検討

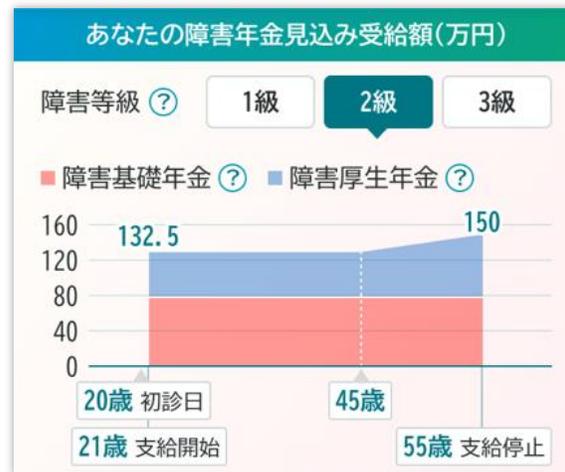
3.1 障害年金のシミュレーション結果における期待値（レベル感）の評価

“障害等級”ごとの受給金額が一見できるシンプルな結果表示が好評

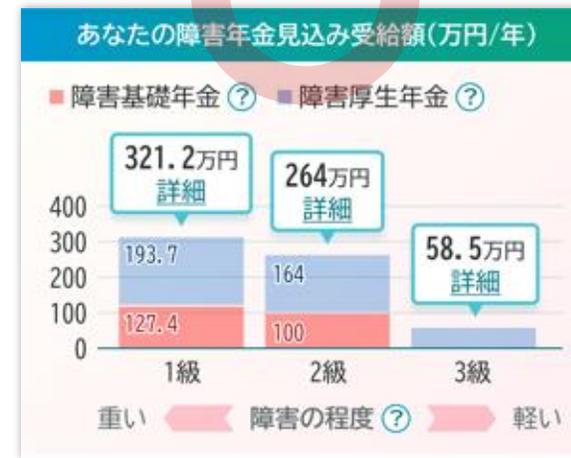
障害年金のシミュレーションにおいては「制度が存在すること」、及び「基本的な制度を理解してもらうこと」をコンセプトとして検討。グラフにおいてもシンプルに提示することを想定していたが、その期待値やレベル感を確認するためにプロトタイプをベースに有識者、ユーザーに評価を実施。プロジェクト関係者の中では時系列と積み上げグラフ（①or②）を想定していたもの、③でのシンプルな表示に評価が得られた。



①各種イベントを明示



②受給期間の流れを明示



③障害等級ごとの金額差を明示



④年齢ごとの受給額を文字で明示

3. HCDプロセスに基づいたUIデザインの検討

3.2 iDeCo運用リスクに対する理解の深化

「iDeCoは元本割れしない」という認識を持つ層が一定数存在

- 運用リスクの正しい理解については仮説においても懸念の一つ
- 定量調査では「リスクは理解できている」との回答（9割）
- 一方でユーザーインタビューでは誤解している意見が複数あり
厚生労働省のロゴがあるから元本割れは無いと思った等
- iDeCoは自身で責任もって運用する制度であることを理解した上でシミュレーションするフローを検討
- ユーザー評価にて読み飛ばし(読まれない)ケースが散見、気づきを与えることができるデザインに見直し



- プッシュ型による情報提示
「読み飛ばし」を回避
- 図示により元本割れのリスクがあることの明示

- 利回りの選択においても「リスク」という言葉を採用
- 「積立金額を下回る」旨を記載

3.3 ライフプランの「全体像」と「持続性」の把握

運用の継続（積み上げ）だけではなく資産寿命（取り崩し）にも同等に関心有

会場調査において「いくら貯まるか」というだけではなく、「そのお金で老後どう過ごせるか」ということの可視化においても同様に関心が高い結果となった。iDeCoのシミュレーションにおいては制度への“気づき”と合わせて、iDeCo出口戦略、及びライフプランの検討につなげることを狙い、両方のグラフを提示。



積立額



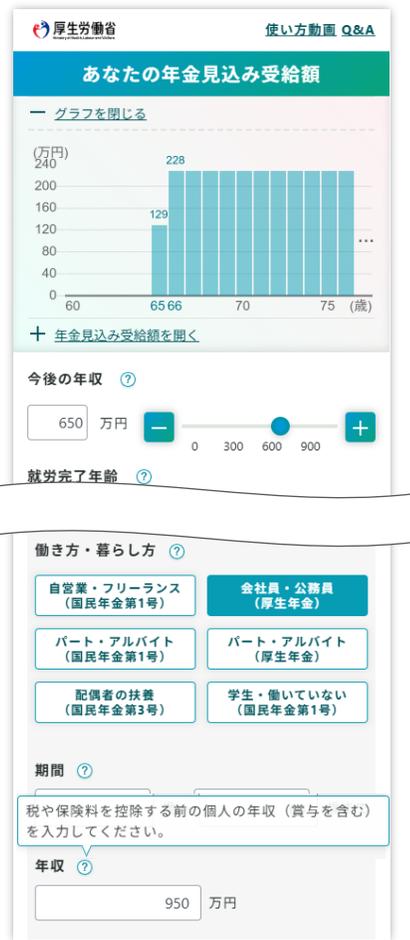
需給見込み額



取り崩し

3. HCDプロセスに基づいたUIデザインの検討

3.4 「不」を解消できる表現の見直し



現行

The screenshot shows the '働き方の入力' (Input of Working Style) section. It includes a text input for '働き方1' (Working Style 1) and a '職業' (Occupation) dropdown menu with the following options:

- 自営業・フリーランス (国民年金第1号)
- 学生・働いていない (国民年金第1号)
- パート・アルバイト (国民年金第1号)
- パート・アルバイト (厚生年金)
- 会社員・公務員 (厚生年金)
- 配偶者の扶養 (国民年金第3号)

A tooltip is displayed over the '会社員・公務員' option, containing the text: '現在の職業の期間における、税引前の「額面年収 (ボーナス込)」の平均を入力してください。 ※時期により年収が大きく変わる際は、「働き方の追加」で期間を分けると精度が上がります。' (Enter the average of the 'gross annual income (including bonuses)' for the current period of your profession. ※If the annual income changes significantly over time, dividing the period by adding working styles will improve accuracy.)

Below the dropdown, there is a '会社員・公務員期間の平均年収' (Average Annual Income for Company Employee/Public Servant Period) field with a value of 800万円.

次期

難解な制度(文言やガイド)により シミュレーション操作が阻害されている(完遂できない)

- 「働き方」「期間」「年収」のいずれかの情報入力欄で戸惑った層は58%を占め、その中でも「期間」が30%と最も高い
- 各項目に共通して「どの時点の情報を入力すればよいか分からない」などの指摘
- 左記以外でもラベルやガイド文等の表現をユーザー視点（迷わないか、誤解しないか）の観点でブラッシュアップを実施

3. HCDプロセスに基づいたUIデザインの検討

3.5 結果の2層表示による年金制度の理解の深化

老齢、障害の基礎年金、厚生年金は大事な考え方であるが理解度は十分ではない

- 老齢基礎年金、老齢厚生年金は将来の働き方、キャリア選択に影響する考え方
- 一方で理解は十分ではない（会場調査）
- シミュレーションの結果表示を二層にすることで制度への“気づき”と“理解”を促す



現行(老齢年金)



次期(老齢年金)



次期(障害年金)